



日本を元気に！

昨年3月に発生した東日本大震災で、被災地周辺の森林は大きな被害を受けました。被害についてはまだ調査が続けられていますが、3月までに判明した林野関係被害面積は3956ヘクタール、被害総額は2155億円にのぼります。

こうしたなか、様々な立場の人々が立ち上がり、森林の再生に取り組みとともに、森林資源を活用して震災からの復興を図る活動をはじめています。

今回の特集では、そんな森と木のチカラで日本を元気にする取り組みを紹介します。

東日本大震災による林野関係の被害箇所（平成24年3月5日現在）

（単位：被害額、百万円）

区分	民有林		国有林		合計	
	箇所数	金額	箇所数	金額	箇所数	金額
林地荒廃	412	24,914	46	9,666	458	34,580
治山施設	247	97,791	28	28,420	275	126,211
林道施設等	2,356	3,836	276	328	2,632	4,164
森林被害(面積ヘクタール)	(1,065)	960	(-)	-	(1,065)	960
木材加工・流通施設	115	46,697	-	-	115	46,697
特用林産施設等	476	2,923	-	-	476	2,923
(面積ヘクタール) 合計	(1,065) 3,606	177,120	(-) 350	38,414	(1,065) 3,956	215,535

注：被害箇所、被害金額については調査中。

：林道施設等は、山村環境施設が含まれる。

：特用林産施設等は、苗畑施設・林構施設(木材加工・流通施設を除く)が含まれる。

：四捨五入のため合計額の数値が一致しない場合がある。



森林・林業の再生に向けて

我が国は、国土の約3分の2に当たる2500万ヘクタールが森林という、緑豊かな「森林国」です。

ています。

しかし、我が国の森林・林業・木材産業は厳しい状況にあり、長い年月をかけて育まれてきた森林を将来世代に残していくことができるのか、私たちは重大な局面に立たされています。

このような強い危機感のもと、農林水産省では、平成21年12月に、10年後の木材自給率50%以上を目指すべき姿として掲げた森林・林業再生プランを作成・公表するとともに、我が国の森林・林業を早急に再生するための取組を進めています。

このうち、森林整備事業では、我が国の森林資源を最大限有効に活用して森林・林業を再生し、持続的な森林経営の確立と国産材の安定供給体制を構築するため、森林管理・環境保全直接支払制度を導入し、多様な森林の整備、森林施業の集約化や路網整備を推進するための支援を行います。また、これらの取り組みを通じて、東日本大震災の復興に必要な木材の供給も進めます。

森林管理・環境保全直接支払制度

平成23年度から、適正な森林管理により、国土の保全・水源の涵養等、森林の有する公益的機能を十分に発揮させるとともに、京都議定書の削減目標達成に必要な森林吸収量を確保するため、面的まとまりをもって計画的に、間伐等の森林整備を実施する森林所有者等を直接支援する「森林管理・環境保全直接支払制度」が開始されました。

①間伐、更新伐は路網を活用した搬出への支援に転換

この制度では、利用可能な伐採木を搬出せず林内に放置されていることが多かった従来の制度を改め、森林経営計画の区域内で、一定量(実施面積1ヘクタール当たり平均10㎡以上)の木材を搬出している場合について支援することとしています。

これにより、木材の搬出材積に見合った助成が行えます。

②集約化や路網整備の推進による施業の低コスト化

間伐等の補助単価については、低コスト化に取り組んでいる事業体を参考に、主な作業の種類ごとに国が標準的な作業工程を提示します。これに基づき都道府県が労賃等を加味して単価を設定する方式とし、低コスト化の取組みを単価に反映し、採算性の向上を図っていきます。



搬出間伐

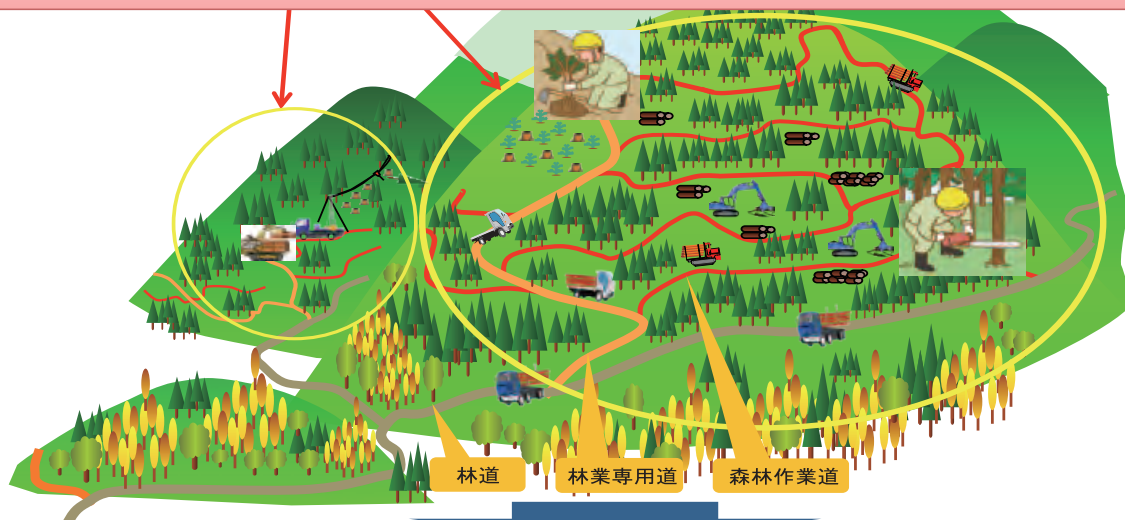
支援対象となる主な作業

- 地拵え、植栽等
- 下刈り(10年生以下)
- 枝打ち(30年生以下)
- 雪起こし(25年生以下)
- 倒木起こし(25年生以下)
- 除伐等(25年生以下)
- 間伐(60年生以下)
- 更新伐(90年生以下)
- 付帯施設等整備
 - ・鳥獣害防止施設等
 - ・荒廃竹林等
- 森林作業道整備

これからの森林整備

- ・森林施業の集約化
- ・搬出間伐(5ha以上)

- ・計画的な路網整備
- ・路網と高性能林業機械を用いた低コスト作業システム



施業のコストダウン + 間伐材の有効利用 → 林業所得の増加



丈夫で簡易な道を主体とした 路網整備の推進



持続的

な森林経
営を実現
するため

には、森
林の多面
的機能を
持続的に

発揮していく基盤として、丈夫で簡易な壊れにくい道づくりを進めていく必要があります。

そこで、路網を構成する道を「林道」、「林業専用道」、「森林作業道」の3つに区分し、平成23年度から新しい路網の区分それぞれの役割に応じた適切な組合せにより、長期にわたり使用することを前提とした路網整備の支援を行っています。

①林道の整備

効率的な森林の整備、地域産業の振興等を図ります。

●原則として不特定多数の者が利用可能な恒久的的公

共施設

●セミトラクターの車両の

通行を想定

●一般車の通行も想定し安全施設を完

備

②林業専用道の整備

幹線となる

林道を補完し、森林作業道と組み合わせることによって、

木材輸送機能を強化・補完します。

●主として森林施業を行うために利用される恒久的

公共施設

●10トン積程度のトラックや林業用車両(大型ホイールフォワード等)の走行を

想定

●必要最小限の規格・構造を有する丈夫で簡易な道

③森林作業道の整備

導入する作業システムに対応し、森林整備の促進を図ります。

●森林所有者や林業事業者など、特定の者が森林施

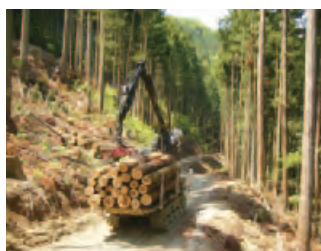
業を行うために利用

●主として林業機械(2トン積程度の小型トラックを含む)の走行を想定

●経済性を確保しつつ丈夫で簡易な構造とする



林業専用道



森林作業道



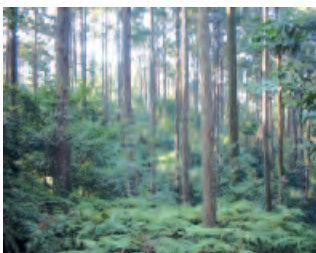
育成複層林施業の推進

森林づくりの基本となる間伐は、木々の成長により混み合った森林の木の一部を伐つて本数密度を調整する作業です。間伐を行うことにより、残った木々の成長を促すだけでなく

森林の公益的機能の維持・増進に役立ちます。

森林の木を伐採するとき、一度に全部伐らずに必要な分だけ抜き伐りし、その跡に若い木を育て、年齢や樹種の違う

間伐した森林



間伐していない森林



木で構成される複層状態の森林をつくることを育成複層林施業とい

います。

●このような森林は、大き

間伐を行うことによる効果

間伐を行うことで…

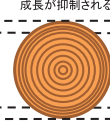
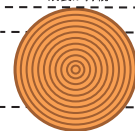
- ①病害虫、風雪害などに対して抵抗性の高い健全な森林となります。
- ②幹の直径成長を促し、年輪幅の整った、利用価値の高い木材を生産します。
- ③曲がり木やあばれ木などが除かれ、まっすぐで良質な木材が生産できます。
- ④主伐までの間に、数回、木材を収穫できます。

間伐すると

間伐しないと

成長が持続

成長が抑制される



地球温暖化防止にも貢献します…

(独)森林総合研究所の調査によれば、適切な間伐を実施した森林は、間伐未実施の森林に比べ、伐採木を含めた森林バイオマス全体の二酸化炭素吸収量が增多するとされています。

さらに、京都議定書における森林吸収量としてカウントされるには、平成2年以降に間伐等の手入れが行われている必要があるため、今後の間伐は京都議定書の目標達成にも貢献します。

な木を伐採しても小さな木が残り、常に林地が樹木で覆われるため、森林のもつ様々な機能を持続的に発揮できます。

我が国の人工林では、今後、伐期に達した人工林が急増するため、これら全てを伐採するのではなく、森林を健全な状態で維持し、資源を循環させていくことが重要となります。このため、一定の林齢に達している人工林を対象に、抜き伐りや苗木の植付けなどによって、長期の複層林へと誘導する長期育成循環施業を推進しています。

クロマツの種まきを前に防風ネットを設置。



「クロマツお助け隊」と名づけられた海岸林再生プロジェクトは、10年計画で被災地住民の有志による苗木生産グループが約50万本のクロマツの苗木を育てるといふもの。その根底には、ふるさとへの白浜にクロマツの並ぶ美しい風景を取り戻すことを復興の

約3600ヘクタールの海岸林が被害を受けました。宮城県の被害はほぼその半分の約1753ヘクタールに上っています。しかし、東日本大震災による津波により、被災地全域で

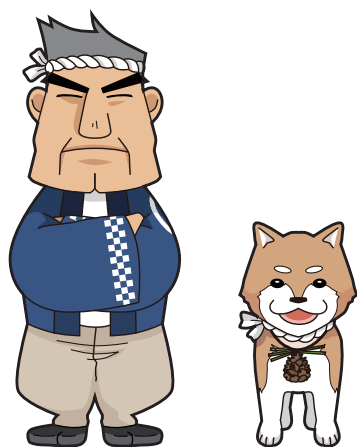
国内外で植林活動を行う公益財団法人オイスカが取り組んでいるのは、東日本大震災で甚大な被害を受けた宮城県名取市の海岸林再生プロジェクト。

台平野一帯では海岸林が造成され、飛砂や塩害、強風や高潮から人々を守るとともに、荒廃地を農地へと変えてきました。

目標とシンボルにしたいという地元住民の願いがあります。活動の中心となる地元・名取市の苗木生産グループには、津波による壊滅的な被害によって農産物をつくるのが困難になった農家の人も含まれており、クロマツの苗木を育てることが被災地住民の収入確保手段のひとつになっています。



雪の残る育苗地に堆肥を施す作業。



クロマツお助け隊のキャラクター。クロマツの親分と愛犬のタロウ。



仙台国際センターで開催された、林野庁主催の国際セミナー。

公益財団法人
オイスカ

海岸林再生プロジェクト

「クロマツお助け隊」

ふるさとへの浜の風景を取り戻すために

被災地支援プロジェクト

「LIFE311」

モア・トゥリーズ(more trees)は、「もつと木を」という音楽家・坂本龍一氏による呼びかけで設立された森林保全団体。カーボンオフセットの仕組みなどを取り入れ、持続可能な森づくり目指した森林再生プロジェクトを国内外11か所(国内では10か所)で進めています。

「LIFE311」は、「森



六本木ヒルズアリーナに建てられた木造仮設住宅。

林・林業 日本二」を目指す自治体としてFSC(森林認証)を取得している岩手県住田町を拠点とした被災地支援プロジェクトです。住田町は岩手県の東南部に位置し、震災で壊滅的な被害を受けた陸前高田市、大船渡市、釜石市と隣接する内陸の町。豊富な森林資源と木材加工施設を持ち、震災直後から町独自の取り組みとして、地域材を活用した木造仮設住宅の建設に着手しました。

「LIFE311」は、住田町の仮設住宅の建設支援と、木質ペレットストーブの設置を支援することにより、地域の森林資源を活用して被災地復興と森林再生を同時に実現しようというもの。木造仮設住宅は、その役割を終えた後も木材を暖房燃料等に活用できるため木質バイオマスとしての利用が可能になります。ま



た、木材加工時に出る端材やかなな屑などを圧縮成形した木質ペレットを燃料とするペレットストーブの仮設住宅への設置も行われました。

昨年7月には東京都の六本木ヒルズに木製仮設住宅を展示し、被災地支援を呼びかけるイベントを開催。あわせて、森林資源の活用が震災復興に役立つことを示すことで、森の活性化を訴えました。



地域材を活用した木造仮設住宅。



森林資源の活用



木材加工時に出る端材やかなな屑などを圧縮成形した木質ペレット。



日本の森林を元気に! 国産材を使った「MOTTAINAIの森」

MOTTAINAIキャンペーン

MOTTAINAIキャンペーンは、環境分野の活動家として史上初のノーベル平和賞を受賞したケニア出身の女性環境保護活動家、ワンガリ・マータイ氏が提唱した持続可能な循環型社会の構築を目指す活動です。

平成17年からケニアの植林活動「グリーンベルト運動」を支援してきたMOTTAINAIキャンペーンが日本国内の森林環境に目を向けたのは昨年のこと。手入れの行き届かない森林が増え、日本の森林が本来あるべき姿を失ないつつあることを知ったのが始まりでした。

こうした現状を「もったいない」ととらえ、生まれたのが、「MOTTAINAIの森」シリーズ。木を植え、育て、収穫し、上手に使い、また植えるという日本の森づくりの循環を大切に、日常生活で国産木材製品を使うことで、日本の森林を元気にすることを狙いとしています。



国産シラカバを漆で仕上げたしらかばカップ



4種類の国産材を使用した
カッティングボード

MOTTAINAIキャンペーン <http://mottainai.info/>

森から 三陸漁場復興を支援

釜石地方森林組合

釜石地方森林組合のある釜石市は、岩手県の南東部、陸中海岸国立公園のほぼ中央に位置しており、海洋の影響と地理的条件から四季を通じて温暖な地域です。三陸漁場の中心港として、「鉄と魚のまち」として発展してきました。同組合



養殖用材の供給に向けた講習会

では、震災後、釜石市の市有林を受託管理しているほか、震災の影響で遅れた林道・歩道の整備や下刈などの保育作業をボランティアとして行ってきました。

昨年9月には、岩手県内の林業団体を集め、震災で破損した養殖用材の供給に向けた講習会を開催。津波による被害を引き起こした海を、地元に観光と漁業資源など様々な恩恵をあたえてきた本来の姿へと戻す取り組みを行っています。



大槌町有林から見た三陸漁場



受託管理している釜石市の市有林

地球と子どもたちの未来を守る、 医療用木製玩具・ぷればらウッド

堀内ウッドクラフト

ぷればらウッドとは医療器械の形をした木製のおもちゃ。

国産材を使用した文具や漆器を製造している堀内ウッドクラフトが、神奈川県森林再生課の協

力を得て小児医療従事者と共同で開発をした日本で初めての小児医療用の木製玩具です。

「入院中の子どもが、自分に行われる治療方法や手術当日の準備などを知る事が出来る木製玩具を」という声に応じて開発したもので、検査や手術の説明の際に、治療台やMRI、聴診器などの木製玩具を使って医療従事者が説明したり、事前に遊んでもらう事で、検査や手術に対する子どもたちの不安をやわらげ、安心して治療に専念してもらうことを狙いとしています。

木のぬくもりを生かした医療用玩具は看護学会でもたびたび紹介され、国内の100を超す医療機関をはじめ、アメリカやオランダ、香港の医療機関でも採用されています。



堀内ウッドクラフト <http://www.horiuchiwoodcraft.com>

日本の森や自然環境を健康に、 ものづくりの産地を元気に

株式会社ワイス・ワイス

家具メーカー、ワイス・ワイスのテーマは「国産材を使った家具で森を守る」こと。そのため、長く使えるデザインを採用するとともに修理・再利用のサービスを行うこと、生産地や生産者が明らかな国内産の木材を積極的に使用することなどにより、木材を通した環境保全への取り組みを進めるとともに、森林を壊さない木材調達と接着剤などに含まれる化学物質に対する対策、温暖化防止対策などを実施しています。また、同社の使用する国産材の産地は大半が東北地方のため、この取り組みは被災地復興の一助ともなっています。

昨年は「日本の木を使った家具をつくる、100年先の暮らしを考える」を合い言葉にした「につぼんの木 100年家具コンペティション」を開催。大量生産、大量消費という20世紀型のライフスタイルに対し、未来の世代に持続可能な循環型社会を手渡すため、家具づくりを通して100年先の豊かな暮らしと、世の中を素敵にするしきみを考えていこうと呼びかけています。

コンペティションの結果は現在ワイス・ワイスHPにて公開中です。



秋田・岩手のクリ材を
集成し、開発した
テーブルとチェア
「SATOYAMA」シリーズ

100年家具コンペ
最優秀賞を受賞した
「Quru」



株式会社ワイス・ワイス <http://www.wisewise.com/>